

「これは良いな」と思ってファイルに綴じてあるものの一つを紹介します。

最近、一人の卒業生が手紙をくれました。開いてみると 校長先生、その後お変わりありませんか。私は先生にどうしても聞いていただきたいことがありましたので、筆をとりました。

先生は、卒業式の日、卒業証書をくださいます時

「皆さんは、これを家に持って帰って、お父さんやお母さんの前に置いて、ありがとうございますと言ってお礼が言えなかったならば、この卒業証書は何の値打ちもありません。紙屑であります」とおっしゃいました。私は、聞きながら、折角の卒業証書を紙屑にはなさないことであり、一言お礼を言おうと思いました。しかし、日々の日暮らしを振り返ってみると、そんな殊勝なことを、まだ一遍も言ったことがありません。また、そんなことを言えば、きっと父は

「いつもと違うじゃあない、雨が降るよ」と、ひやかしそうです。

どのようにお礼を言おうかと考えながら、帰りました。母は

「お帰り、卒業おめでとう」と言ってくれましたが、そんなことは耳に入らず、だまって中へつかつかと入って行きました。母は心配そうに後ろからついて来ました。私は父の部屋に入り、座わって、そこに卒業証書を置き、さて

「ありがとうございました」と言おうと思うのですが、どうも照れくさくて言えません。しかし先生の言葉に励まされて、下に向いたままではありましたが、とにかく

「ありがとうございました」と言ったのです。

そろそろ

「雪が降るぞ」と父のひやかす声が出るころなのに、その日は、なぜか、いくら待っても、ひやかす言葉が出てきません。変だなと思いながら、下からチラッと父の顔を見ました。父の目には涙がいっぱいうかんでおりました。そして、たった一言

「ご苦労じゃったね」というのです。母の方をみると、母は堪え切れなくなって、目からポトポト涙をこぼしているのです。

私は、ハッとしました。この卒業証書は、私が勉強し、私が努力をしてもらったものとばかり思っていたのですが、とんでもない大間違いだったのです。これは、本当は父や母がもらえるべきものでありました。私は、初めて親心に遇った思いでした。現在、親元を離れていますが、いつも父や母の方に向かって手を合わせております。

と書いてありました

。私は、この話を聞きながら、この人はもう大丈夫、どんな人生の道を歩もうと、どんな境遇に落ちこもうと、人間として立派に生き抜く力が身につけている、と思いました。

4組担任 M

週行事予定表（11 / 21 ~ 30）

月	日	曜	行 事	備 考
11	21	月		7:25 着席 A
	22	火		7:25 着席 A
	23	水	勤労感謝の日	
	24	木		7:25 着席 A
	25	金		8:20 登校
	26	土	土曜講座	(8:20 開始)
	27	日		
	28	月	期末考査	8:20 登校
	29	火	期末考査	8:20 登校
	30	水	期末考査	8:20 登校